

藤波こども園

園長だより

No. 54

令和元年12月23日
文責 竹原 篤



旧 藤波幼稚園 現 藤波こども園

高島しぐれが多く、園庭で遊べない日もありますが、ほぼ毎日北の空にきれいな虹を見ることができます。そんな中、寒くても子どもたちは園庭で元気よく缶けりやボール遊びに夢中になっています。また、砂場でお友だちと美味しそうな料理を楽しく作っています。「園長先生 食べてみて」と泥で作ったケーキや草で作ったジュースをだしてくれます。本当に飲んだふりや食べたふりをすると「本物と違うで！食べたらかん！！」と言ってくれることもあります。前号でも書きましたが、子どもは本当にかわいいですね。藤波こども園ではそんなかわいい子どもの思いを大切に取り組みや行事を行っています。そんな中で私が子どもや先生の言動から感じたことや学んだことを書かせていただきます。

子どもに何かさせようとした場合に「命令」ではなく「依頼」をするように心がけています。「ちょっとそのボール、取ってくれない。」これは命令になると思います。「悪いけど・・・、お願いだから・・・。申し訳ないけど・・・。そのボール取ってくれない。」と丁寧に言うこともあります。これも命令だと思います。むしろ丁寧に言えば言うほど、取ってくれなかった場合に怒りが生まれます。「なんでとってくれへんねん。」「大人の私がお願い・・・とまで言っているのに。腹立つな。」と思ってしまう。反対に取ってくれた場合、「これだけお願いしたんやから、取ってくれて当たり前やろ。」と思ってしまう。

でも、「依頼」の場合は、「そのボール、取ってくれると園長先生はとっても嬉しいんやけど。」となり、取る取らないは子ども(相手)が決めることです。取ってくれたら、それは私のために相手が決断して取ってくれたのですから、「ありがとう」の感謝の言葉になります。取ってくれなくてもいいので、怒りは生まれません。「〇〇してくれると私はとっても嬉しい・助かる・ありがたい。」こんなふうにするのが依頼だと思います。決定権は子ども(相手)にあります。同じ人間として穏やかに接していけば、子どもなりに理解もするし、優しい心が育つのだと思います。

私も含めてですが、スポーツを教える人の中に一生懸命になるのはわかりますが、きつい言葉で指導される方を時々見かけます。子どもに命令し、罵倒し、人権を踏みにじるような言葉を・・・。それで強くなるんだったらよいのでしょうか。そんなきつい言葉を使わなければ子どもはできないのでしょうか。きつくやられた分は、どこかで誰かにお返しをすることもあります。大人の指導がきっかけで子どもの世界にこのような負の連鎖がおこらないようにと思います。確かに「命令」と「依頼」。なかなか難しいと思います。場面によっては「命令」もいると思いますが、使い分けは必要だと思います。ただ「命令」と「依頼」の違いを知っているのと知らないのとでは子どもへの接し方や子どもの成長に違いが出てくると思います。55号では上記の続きで「親や教師・大人の基準で判断しないことや大人の基準を押し付けないこと」などについて書きたいと思っています。

子どもたちが遊びの中で背景画や小道具作りを楽しみ、自ら衣装を考え作り、声の大きさ・動きも子ども同士で話しあってできあがった発表会の様子です。



あっぷりけ観劇会

12月12日(木)に安曇川民生委員児童委員協議会様のご支

援のもと、人形劇団「あっぷりけ」さんによる観劇会を行いました。当日は本園の子どもたちだけでなく、さくらんぼに来ておられる親子さんにも見ていただくことができました。子どもたちはとても楽しい時間を過ごすことができ、観劇会が終わりホームでさっそく人形劇ごっこの小道具を作り始めていました。観劇を楽しいと感じ、先生の指示もなく、子ども自らが紙皿やダンゴリ等の材料を集め、はさみやのり、セロハンテープを使って、お友だちと小道具作りをしている活動は「主体的・対話的で深い学び」の姿だと思いました。



発表会が終わってもホーム（3～5歳のたてわり）で発表会ごっこを楽しんでいました。



🌸ありがとうございます🌸

【いただきました】

○葉ぼたん

J A 西びわこ女性部様

○ポケットティッシュ

安曇川民生委員児童委員協議会様

